

「ああでもない、こうでもない っていう交流を大切に」



みさと協立病院
研修医 梁取 慧 医師

研修医として奮闘中の梁取先生。インタビュー前も外来研修をおこなっていました。指導医の先生と相談しながら、診察をおこないます。患者さんの趣味のお話も伺いながら、和やかに診察がおこなわれていました。

人と関わるのが大好きだという梁取先生。
学生時代のお話を伺います。

※インタビュー当時(2015年12月)

一医師を目指した理由を教えて下さい。

思い返すと、小さい頃は風邪をひくことが多く、よく医者にかかりっていました。家のそばの開業医の先生が身近な存在で、大好きな先生でした。食べるものにまであれやこれやと言ってくれたのを覚えています。医師という仕事が「人の生活に関わる」ことだという刷り込みがこの時にあったんだろうなって思います。他にもなりたいと思う仕事は幾つもあったんだけれども、人と関わる仕事がしたいという思いが強かったし、健康というのは人に関わることの根源だという思いもあったんです。いま思えば高尚なこと言っているなって感じですけど。(笑)でも、それが自分のなかでの医師を目指した初心だったんです。

一民医連との出会い

大学受験の際、門前で配られていた民医連の資料を受け取ったのがきっかけです。

奨学生は必要だったので、受け取った資料のなか、「奨学金制度説明」は関心がありました。働くことで返済免除がされるという制度なので、自分が医師としてど

こで働くかということも考えるきっかけになりました。将来は、自分の出身地である、松戸で医療をしていくたいと思っていたので、近いところにあるみさと健和病院で勉強するのもいいのではないかと思い、お話を聞いたり、実習したりしました。

一奨学生になったきっかけは何ですか？

入学後、1年間悩みました。奨学生をもらうと将来ここで働くことになる。将来を今決めてしまっていいのだろうかと。

けれども何回か実習をしてみて、みさと健和病院が、地域とすごく繋がりがあり、患者さんを一人の人間として見ていく患者観があり、病を持ったひとりの人生に関わっていくというスタンスを持っている病院・団体だと思いました。

ここで医師として研修することは学ぶべきことが多いと思い、奨学生になることを決めました。

一奨学生活動では、どんな事をしましたか？

東京民医連の奨学生ミーティング、東京慈恵会医科大ミーティング、医療や社会に関わるテーマ学習、宮城への震災ボランティア・医学生のつどいと様々な活

動に参加しました。

特に楽しかったのは東京民医連奨学生合宿です。その場にいかないと感じられないことたくさんあったし、その場で色んな人と会って、「ああでもない」「こうでもない」とディスカッションや交流できたことが自分の成長につながっている。もちろん、事前に学習する機会もあるからこそ、深められるというのも大事なポイントでした。

テーマ学習では「ハンセン病」「アスペルト」「水俣病」「東京の地域医療」など学びました。学んだことをよく「発表」してアウトプットしていました。自分自身、人とお話しすることや自分の考え方を伝えること、人に教えるのが好きということも大きかったかな。

奨学生活動って学ぶとか実際に体験するということも大事だけれど、それだけではなく先輩や後輩との出会い、医師や医療者との出会い、そういう人との出会いや交流も大事だったんです。そういう学びや体験や出会いを通じて、自分たちが学んだことを形にして伝えます。その繰り返しが楽しかったんですね。それが奨学生活動の魅力なのかもしれません。

一医師として、働きがいはなんですか？

まだ、医師になって7ヵ月。けして楽な仕事ではないと感じています。ご飯を食べていくだけだったら選ぶ仕事じゃないなあと。「人と関わる仕事」が好きと実感できているから続けられているのかと思っています。とくに看護・薬剤・リハビリなどのスタッフと一緒にになって患者さんについて相談しながら「協働」して医療を

おこなっていると
実感できるのが樂
しい!

この病院だと患者
さんを「病気」だ
けでとらえるので
はなく、地域や生
活環境といった広く総合的にみていくことが出来る。
そういうことを大事だと思える。もう一つは、この病
院では人のコミュニケーションがとりやすい。「人と
関わる仕事」をやっていくうえではすごいメリット。

ここでの経験を生かして、ゆくゆくは精神科医の道へ
進みたいと思っています。

一医師を目指す学生さんへのメッセージを

医学生は忙しいっていはれど、部活にも取り組んだ
し、アルバイトもした。奨学生活動も楽しいから取り組みました。

忙しい中でも、結局自分がやりたい事ってなんだろう。
自分は、どういう人間でどう生き方をしてきて、こ
ういうことをしていきたいって明確にして、だから頑張
れるんだ、楽しいと思えるからやっていくんだって思
えます。それを学生の時からしっかり考える事が大事だ
と思います。

医師にとって、自分の「軸」とか「根幹」というものははつ
ても大切。けどこれは医学生とっても大切なことだ
と思う。ぜひ学生時代に様々な経験をして、「自分の軸」
を強くしてほしいと思います。

医学生時代・緩和ケア病棟での演奏ボランティア▼

